

平和祈念滋賀県戦没者追悼式 追悼のことば

本日ここに、ご来賓並びに戦没者ご遺族のご参列のもと、滋賀県主催により、「令和5年平和祈念滋賀県戦没者追悼式」が厳粛に執り行われるにあたり、一般財団法人滋賀県遺族会を代表して、謹んで追悼のことばを申し上げます。

先の大東亜戦争が終わり、早くも78年を迎えております。この大戦で全国では246万人、滋賀県では3万2千7百十五柱のご英霊が、祖国の安泰と繁栄、人々の幸せと家族の安寧を願いつつ、散華され礎とられました。今日の平和と繁栄は、幾多の御霊の尊い犠牲の上に、築き上げられたものであることを、私たちは片時も忘れてはなりません。

今静かに振り返りますと、戦後の混迷する社会は人々の心を奪い去り、最愛の肉親を失った私たち遺族の歩んだ道は、それはそれは筆舌に尽くしがたい、苦難の歲月でありました。この悲惨な戦争を二度と繰り返すことなく、平和で豊かな今日において、「戦争の悲惨さ」「命の尊さ」「平和の大切さ」を、次の世代に正しく語り継いで行くことが、私たちに課せられた責務であると考えております。

戦後78年が経過し、戦争を知らない世代が9割を占めるようになり、今日、戦争の記憶、悲劇が風化の一途にあり、平和で豊かなこの社会を、当たり前前に思う人がたくさんおられます。

故に、令和4年度から私たちは、二度と再び戦没者遺族を出さないこと、そして戦争の悲惨さと愚かさを伝えるべく、「語り継ぐ遺された傷跡」という合言葉のもとに、風化防止活動を推進しております。

各市町単位で戦争の傷跡と探し、まとめ、学校での平和学習や公民館活動などの勉強会に、資料として提供したいと考えております。身近なところでの残された戦争の傷跡を、再度見つめ直すことにより、平和の尊さ命の大切さを、学んでほしいのであります。特に、今後は、戦争を知らない世代が、さらにその先の戦争を知らない世代に、平和の大切さを語り継いでもらうことになり、この取り組みは極めて重要であると認識いたしております。令和5年度までの2か年で、まずは資料のとりまとめを、きちんとやり遂げていく決意であります。

御縁をいただき、今年5月と6月の二度にわたり、沖縄県摩文仁の丘に建立されている、沖縄の戦いで滋賀県関係戦没者の慰霊塔・「近江の塔」に、参拝することが出来ました。一回目は、滋賀県遺族

会主催の、戦没者追悼式であり、二回目は、日本遺族会と沖縄県遺族連合会との共催による、「沖縄平和祈願慰霊大行進」の、際であります。

さて、私事ではありますが、私は、先の大戦の戦争遺児の一人であります。父は海軍に所属し、昭和20年1月、広島県呉市の港から沖縄に物資を輸送する途中で、沖縄の近海にて、敵の潜水艦と交戦することになり、乗っていた船が被弾し、撃沈され帰らぬ人となってしまいました。昭和20年3月からの沖縄の戦いの、ほんの2か月ほど前のことであり、私の父も沖縄に関わった戦没者の一人として、沖縄「近江の塔」に合祀されております。先般6月23日、平和祈願慰霊大行進の後、「近江の塔」まで出向いて再度のお参りをし、父の名前が刻されている印字を、時間をかけて静かに心行くまで、この手で何回も撫でて参りました。思いもよらず、父との再会を果たすことが出来ました。今や私にとりまして、「近江の塔」は、物心つく前に亡くなってしまった父と二人して語り合う事が出来る、大変大事な、大事なところになっております。今後とも私の体力の続く限り、機会をとらえて沖縄「近江の塔」に参拝をし、父との語りいをして参りたいと考えております。

ひるがえって、昨年2月24日突如、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始いたしました。滋賀県遺族会では、県民の皆さんに先駆け、いち早くウクライナ支援の募金活動を始めました。市町遺族会での会合などの機会、そして滋賀県遺族会主催による女性会員研修会や、戦没者遺族大会の場で、会員の皆さんの温かいご協力をいただき、昨年12月、日本赤十字社滋賀県支部を通じて、心ばかりの義援金をお渡しいたしました。

これはひとえに、私たち大東亜戦争の遺児として、戦場と化した街を逃げ惑う、ウクライナの子供たちの姿に、また、かけがえの無い親を失い途方に暮れ泣き叫ぶ、子供たちの頬を伝う涙に、70数年前の自分自身の姿と、重なり合うものを強く感じたからであります。いまもなお、終わりの見えない戦争の惨劇が続いております。滋賀県遺族会として私たちに課せられている、恒久平和の実現運動にかかる使命を果たすべく、引き続き本年度も会員の皆様のご協力を得ながら、ウクライナへの支援の手を差しのべて参る所存であります。

悲惨な哀しみの歴史を、二度と再び繰り返さない、また、繰り返させない、その思いを新たに、戦争の愚かさ、そして平和の尊さを噛みしめて、次の世代にしっかりと語り継ぐ責務が、今に生きる私たち

の使命であることを、改めて、戦没者の御霊の御前で固くお誓い申し上げます。

結びになりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大以前の規模で、厳粛に追悼式を挙行していただきました、滋賀県知事 三日月大造様をはじめ、ご来賓各位に深く感謝申し上げますとともに、ご参会賜りました、ご遺族皆様のご健勝と、ご多幸を心からご祈念申し上げます。

戦没者の御霊が、安らかにお眠りくださるようお祈りし、追悼のこ
とばといたします。

令和5年8月26日

一般財団法人 滋賀県遺族会会長

今堀 治夫